

「日々の理科」(第 2438 号) 2021, -3, 15

「早春の高尾山紀行(8)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「早春の高尾山紀行」は5回シリーズぐらいで終わろうと思っていたが、結局10回ぐらいまでいきそう。露木先生曰く「1日100メートルしか進まない、遅っ」だそう。しかしそれだけ、自分にとっては収穫が多く、省略して書けない内容なのだ。



高尾山にはヤマガラも多い。シジュウカラは都市から高原まで広範囲に生息・営巣するが、ヤマガラ(山雀)は、名の通り低山～高原を好む。他のカラ類よりも目立つ色で、見間違えることもない。比較的人を恐れない野鳥で、手のひらに餌(ヒマワリの種)を置いて30分ぐらいじっとしていると、餌付けに成功する。かつては「おみくじひき」等の見世物にも使われた。



コナラの芽生え(発芽)もたくさん見られた。ドングリ(ブナ科の植物の実)は、それ自体が果実である。堅果の果皮を破り、赤い子葉が持ち上がっていた。



本来40分ぐらいで山頂に着くところを、ゆっくり観察しながら2時間ぐらいかけて、やっと山頂についた。小学生の団体がいて、にぎやかだった。



今回は山頂の茶屋で「とろろそば」を楽しむことにした。「月見とろろそば」は「山頂価格」でやや高かったが、手打ちでとてもおいしく、私はそばだけ「替え玉」のおかわりを注文した。



高尾山は「帝都の展望台」とも呼ばれた。この日は花粉か黄砂かわからないが「何か」が飛んでいて、いわゆる「春霞み」だった。八王子や立川はよく見えたが、都心部やスカイツリーはよく見えなかった。